

大歳青少協だより

令和8年10月
第74号
大歳地区青少年健全育成協議会

「自転車青切符制度について」講習会を開催しました。

7月14日（火）、山口警察署交通課長を講師に迎え、「自転車青切符制度について」講習会を開催し、地域住民38名が参加しました。

講習では、まず山口県内の交通事故発生状況や飲酒時のアルコール残量に関するデータの紹介があり、交通事故を未然に防ぐための心構えについて学びました。続いて、自転車青切符制度の概要や自転車利用時のルールについて説明があり、自転車は原則として車道左側を通行することや、ヘルメット着用の重要性について学びました。

質疑応答では、「道路の片側が水路になっている場所ではどのように通行すればよいか」など、大歳地区の道路事情に関する質問も寄せられました。講師からは、地域の慣例ではなく交通ルールに基づいて通行することが重要であり、右側を通行する場合には自転車を降りて押して歩くことなどの説明がありました。参加者からは「自転車でどこを走ればよいかよく分かった」「家族にも伝えたい」といった声が聞かれ、交通安全への意識を高める有意義な講習会となりました。



危険箇所看板の清掃と周辺の整備を実施しました

7月4日（土）に予定していた危険箇所看板周辺の草刈り・清掃活動は、雨天のため中止となりましたが、後日、有志の皆さんにより、吉敷川周辺やごうのう池周辺の草刈りを実施していただきました。ご協力ありがとうございました。

大歳地区には河川や水路、ため池など注意が必要な場所があります。地域の皆さんで子どもたちを温かく見守り、事故防止に努めていきましょう。

令和8年度青少協の活動

- | | |
|----------------------------------|---|
| ○ 5月27日 総会 | ○ 広報誌「青少協だより」の発行 |
| ○ 6月 9日 ザ・チャレンジお100姓さん（田植え） | ○ 各スポーツ少年団、大歳子ども太鼓、大歳ひろめ隊等への活動助成 |
| ○ 7月 4日 地区内の危険箇所点検、周辺の草刈（中止） | ○ 子ども講座（将棋教室）の開催（毎週土曜日【第4土曜日を除く】9:00～11:30） |
| ○ 7月14日 講習会 | |
| ○ 7月20日 ピックルボール体験会 | |
| ○ 7月26日 みんな元気！ラジオ体操！ | |
| ○ 8月21日 大歳キッズフェスティバル | |
| ○ 10月 6日 ザ・チャレンジお100姓さん（稲刈り）（予定） | |

ピックルボール体験会を開催しました

7月20日（月・祝）、大歳小学校体育館でピックルボール体験会を開催しました。当日は中学生8名を含む24名が参加し、スポーツ推進委員の指導のもと、基本練習や試合を楽しみました。



参加者からは「また参加したい」「楽しかった」といった声が聞かれ、世代を超えた交流を深める機会となりました。今後もスポーツを通じた中学生の居場所づくりと地域交流を進めていきます。



「みんな元気！ラジオ体操！」が実施されました♪

7月26日（日）、朝田神社で大歳地区子ども会の皆さんによる「みんな元気！ラジオ体操！」が開催されました。



当日は早朝にもかかわらず、子どもたちや地域の皆さんの30名を超える参加者が集まり、会場は元気いっぱいの雰囲気に包まれました。

ラジオ体操で気持ちよく体を動かした後は、大歳地区子ども会ユース・シニアリーダーが企画した「ケイドロ」を実施。警察役と泥棒役に分かれ、時間内に相手を捕まえるため、子どもたちは広場を元気よく走り回りました。

参加者からは「ラジオ体操はやっぱり気持ちいいですね」との声も聞かれ、心も体もリフレッシュできた様子でした。

最後には参加者へジュースが配られ、笑顔あふれる楽しいイベントとなりました。



キッズフェスティバルを開催しました

8月21日（金）、大歳小学校で小学校PTAの皆さんによる、6年生児童を対象とした「キッズフェスティバル」が開催されました。

校舎内でのお化け屋敷では、子どもたちの歓声や悲鳴が響き渡り、大いに盛り上がりました。

また、最後には花火を楽しみ、夏休みの思い出に残る楽しいひとときを過ごしました。

ご協力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



ザ・チャレンジ大歳 お100姓さんを実施しました

大歳地区青少年健全育成協議会では、大歳小学校5年生に田植え・稲刈りの農業体験を提供しています。田植えは6月に、稲刈りは10月に実施しています。
(このページは、大歳小学校からの「総合的な学習」や「体験レポート」の報告を掲載しています。)



大歳小5年生、日本の宝「お米」を守る第一歩！

～田植え体験と1学期「総合的な学習」の成果～

大歳小学校の5年生は、1学期の総合的な学習の時間に「日本の米を守るために自分たちができること」を追究してきました。日本人の主食であり、地域の誇りでもあるお米。その歴史や現状を調べ、実際に泥に触れて米作りを体験した、子どもたちの学びと成長の軌跡をご報告します。

1. 泥だらけの田植え体験で見つけた自然と手仕事の重み

6月9日（火）、楽しみにしていた「田植え体験学習」を実施しました。初めて入る田んぼの泥は思った以上に柔らかく、足を踏み入ると深く沈み込んでいき、「足をとられて倒れそう」「まっすぐ植えるのが難しい」と驚きながらも、苗を3～5本ずつ手に取り、目印の糸に沿って慎重に植えていきました。

田んぼの中には、おたまじゃくしやカエル、ジャンボタニシ、ホウネンエビなども発見でき、豊かな自然を肌で感じることができました。



2. 科学技術への驚きと、お米に込められた「八十八の手間」

手植えの大変さを実感する一方で、最新の田植機の見学では驚きの連続でした。一度に何列もの苗を植えながら同時に肥料もまく機械の効率の良さに、子どもたちは「昔に比べて早くて便利」「機械でも正確に植えられている」と、農業の近代化や技術の工夫に目を輝かせていました。



しかし、米作りの本当の苦労は田植えの「後」にあります。お米が届くまでには「八十八の手間」がかかると言われますが、特に大変なのが「草刈り」と「水の管理」です。4月から6月にかけて伸びる雑草を放置すると害虫が稲を食べてしまうため、農家の方は半年間も草刈り続けることを知りました。



また、水の管理は年中行われ、深水や浅水、時には水をあてない期間を作るなど、緻密な調整を繰り返すことで病原菌の発生を防ぐことも学びました。私たちが普段食べている美味しいお米は、こうした農家の方々の絶え間ない工夫と愛情の結晶なのだという事を改めて子どもたちは感じる事ができました。

3. 未来へつなぐ私たちの行動と、感謝の広がり

この体験を経て、子どもたちは「自分たちにできること」を真剣に考え、実行に移しました。下級生へ朝学の時間に紙芝居を披露したり、家庭での米食推進のためにオリジナルレシピを載せたチラシを配付したりしました。



7月中旬には、田植えでお世話になった農家の方々をお招きし、お米を守るための提言をプレゼンテーションで発表する報告会を開催しました。秋にはいよいよ稲刈りが行われます。これから子どもたちは、農家の方々への感謝を胸に、地域の宝であるお米を守る活動を続けていきます。